

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.783 2019

2019年1月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料62円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
TEL：03-5367-6640 FAX：03-5367-6641
URL：http://www.ymcajapan.org/
発行人／神崎 清一 編集人／山根 一毅
印刷／あかつき印刷株式会社



一人ひとりが 「地球市民」として生きる



OPINION

共につながり、つなげるためのプロセス としての「地球市民育成プロジェクト」

ファン・ホジョン
黄 浩貞（社会福祉法人青丘社・川崎市ふれあい館）

過去のいつの時代よりも多くの場で「共に生きる」ことが叫ばれたと思う2018年の終わりに、どのように多様な人びとと「共に」「生きる」のかを考えさせられます。そしてあらためて、地球市民育成プロジェクトを通して共生の道を模索する世界のユースの皆さんに「桜本」という地域や私たちの活動を伝える意味を考えます。

川崎市南部、京浜工業地帯に隣接する桜本という地域で、在日大韓キリスト教会川崎教会の無認可保育園から出発した社会福祉法人青丘社^{せいきゅうしゃ}は、在日コリアンに対する厳しい差別の問題や地域全体を巡る貧困の歴史の中で活動を広げてきました。乳幼児やその家族と共に歩む「桜本保育園」、こども文化センターと社会教育施設の統合施設としての役割を持つ「ふれあい館」、障がいのある人びとや高齢者の生活をサポートする「ほっとライン」。「誰もが力いっぱい生きていくために」をキャッチフレーズに3つの事業所で事業が展開されていますが、その基底には、地域の多文化性、地域に暮らす人びとのニーズに合わせて寄り添うことを大事にする心があります。

私がいる「ふれあい館」では、学校の中でいじめに苦しむコリアンの子どもたちの文化を、周りの日本人の子どもたちに知ってもらうため学校訪問事業（ふれあい事業）を始めたり、長らく学びの機会を奪われていた在日コリアンのための「識字学級」を設けるなどをし、今でも継続されています。

学生時代に学習支援ボランティアとして桜本という地域と出会い、この地域を自身の活動の中心に据えることで、自分の中で点と点として散在したさまざまな疑問が、やっと一つの線になってつながりました。その過程には多くの出会いがありました。だからこそ、世界のユースが「つながる」ことで個々人の問題意識を「つなげる」活動として、また「他者と共に生きる希望」を模索するプロセスとして、地球市民育成プロジェクトは多大な意味を持つのではないのでしょうか。

たやすく「共に生きる」ことを語ることが難しい今日こそ、世界のユースが地球市民として連帯する力を養う場としてのYMCAに、今後もエールを送ります。

*「地球市民育成プロジェクト」は夏期研修で川崎市ふれあい館を訪れています

(OPINION…意味は「意見・見解」など。『THE YMCA』では毎号、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。)

「地球市民育成プロジェクト」は2009年にスタートしました。今年度もユース（18～35歳）の国内研修生25人が研修を通して、世界の課題、例えば環境問題や貧困、紛争は、遠い所のものではなく、未来を生きるための自分自身の課題として考え、それらを解決するためにどのような取り組みをしていくのか、実際にアクションを起こしていきます。

毎年12月には、対象を中高生に絞った「English Camp for Global Leadership」も開催されています。英語によるコミュニケーションを図ることで世界に積極的に目を向けてみよう、と中高生が取り組んでいます。

「地球市民」という言葉を、以前よりも耳にする機会が増えてきました。改めて研修を振り返りながら、その時の気付きや自分なりの「地球市民」について、2人の認証生がまとめました。

私の考える「地球市民」

隣人、ポジティブ、贈り物。

大阪YMCA国際専門学校スタッフ 桐山 泰典

2016年、第6期「地球市民育成プロジェクト」に参加した私。「『地球市民』とか、ちょっと大層やな.....」、そんな思いすら持っていた私にこの研修が与えてくれた多くの贈り物が、今に至るまでじっくり私を変え続け、支え続けてくれています。

一番の贈り物は、祈りの中で与えられた「あなたの『隣人』とは誰か?」「どこに『助ける範囲のライン』を引きますか?」という鮮烈な問い掛けでした。

誰にでも、差別を受け、子育てに疲れ、大切な人を失い、介護を必要とする時が来ます。「私を含めてすべての人が、弱い存在であり『隣人』である」という想像力をみんなが持つことが、世界を温かい居場所にしていくのだと、自然に理解することができました。地球市民にとって、すべての人がつながるべき『隣人』なのです。

研修が進み、格差の厳しい現実について「世界はどうせ変わらない」と無力感に沈むメンバーに対して、リソースパーソンが笑顔とユーモアでコミットし続け、勇気づける姿が印象に残っています。多くの人と共に行動を続けていくのに何よりも必要なのは、ポジティブな姿勢を維持することなのだ、どんな言葉より饒舌に教えていただきました。そして業務が苦しい時に笑顔で元気をくれるYMCAの仲間のことを、自然と思い出しました。意識的に選り取ったポジティブこそ、パワーなのだ実感しました。

研修で発表したアクションプランは1年後、大阪YMCAの子ども食堂「上田Kitchen.Y」として、400人以上の参加者を得たプロジェクトになりました。「とにかく周囲の人に話してみよう」というアドバイスを実践した結果、YMCA内外の多くの仲間と出会い、いつの間にか実現してしまった気がします。協働者である料理人・上田慎一郎さんの口癖は、「一喜一憂せず、粛々と、楽しく」。

地球市民は、あちこちにいます。

アクションプランで触れた「貧困」は経済的なものにとどまらず、世界の格差とともに今後さらに加速していくでしょう。そんな時代だからこそ、みんなで手をつなぎ、温かい世界を作ることを選ぶ「ポジティブネット」を広げていきたいと、強く願っています。



東ティモールからの研修生と、お互いの民族衣装を着て

地球市民 – 自分と世界をつなげる人とはどんな人か

広島YMCAボランティア 原田 恭子

私は地球市民育成プロジェクト(Global Citizenship Project, 以下GCP) 第7期認証生です。GCPが目指す「地球市民」とはどういった人物像を指すのでしょうか。



カルチャーナイト・パーティにて(中央が原田氏)

私は大学に通いながらYMCAの学童保育に関わり、小学生と過ごす時間から多くの気付きや疑問を感じ、グローバル社会を見据えた教育を考える中でGCPに参加しました。

夏期研修でのグループは日本に加え中国、韓国、ベトナム、インドネシア国籍の男女で構成され、英語での慣れないやり取りや各々の持ち込んだ課題は、時に私たちを苦しめましたが、それ以上に多くの実りがありました。特に寿町を訪問したことは、私に大きな気付きを与えました。

寿町は職を失い、生活保護を受けて生きる人びとの街なのですが、町のすえた匂い、ごみの山、日中から酒瓶を持って徘徊する人たちのうつろな目は、私たちに「無力感」というものを強く訴えていました。しかし、彼らが今日を生き延びるために働きかけているボランティアの存在や彼らの意見を知り、GCP研修生はみんなでこの問題について話し合いました。そしてこの出来事が大きく私を変えました。寿町を抜け出せない人びとは、タバコとパチンコ依存症で借金を抱え、職を失った私の父の絶望した目を想起させ、寿町のボランティアの人びとは、投げやりになった父を命懸けで支える母の意地を思い出させました。そして町の声を受け止めて悩むGCP研修生は、そんな両親に反発しながらも向き合う子どもの頃の私の姿と重なりました。その日、今までひそかに抱えていた私自身の問題が、世界中から集まったGCP研修生の問題として認識が変わりました。

今後、私たちが向き合う国際社会は人やモノ、サービスや情報が世界で共有されるだけでなく、各国の問題も世界で向き合う課題として共有されるでしょう。私たちが目指す「地球市民」とはただ英語を話せる人材ではなく、周りに関心を持ち、異なる文化や背景を理解した上で一つの集団としての解決策を考えられる人ではないでしょうか。

GCPは研修生同士が互いを尊重、理解する場であり、一つの集団として考える場を与えてくれます。まわりの誰かの問題に自分の問題として向き合うことから「地球市民」としての一歩がはじまるのではないのでしょうか。

永年のご奉仕に感謝

加盟YMCAあるいは全国的なYMCA運動に対して貢献された方々309人と1団体の表彰・感謝の式が11月24日、第20回日本YMCA大会の席上で行われました。表彰された方は、加盟YMCAおよび同盟から推薦され、表彰委員会で選考し、第359回常議員会で決定されました。多くの方々のYMCAに対するご奉仕に心から感謝いたします。表彰を受けられた方々のお名前は以下の通りです(順不同・敬称略)。

永年継続賞 25年勤続者賞 (64人)

- 北海道YMCA
工藤 啓司
三並 真樹子
仙台YMCA
小林 尚美
とちぎYMCA
藤生 強
東京YMCA
沖 利柯
菅野 牧夫
愛洲 久美子
上田 弘美
石丸 裕子
小野 実
小沼 円
高田 京子
高井 昭彦
星野 太郎
横浜YMCA
植松 基
大谷 昭雄
二戸 明美
関口 努
山添 訓
樋口 浩一
小林 一郎
阿部 正伴
三上 淳
常盤 優嘉
KIM GAVIN
森山 真治

永年継続賞 25年継続会員賞 (163人)

- 北海道YMCA
木村 尚子
小島 成岳
大島 泉
神戸YMCA
原 厚子
塚原 ゆかり
越智 秀彦
山本 麗子
東島 将
川又 了
中田 靖泰
広島YMCA
近藤 恵美子
柴田 亜希子
岩垂 竜太郎
高木 真紀江
在原 健
田中 宏一
田村 美歩
岡 美紀
谷口 喜寿
竹本 晴美
熊本YMCA
中尾 陽子
西 謙一郎

富山YMCA 笠置 雅夫 金沢YMCA 北 肇夫 名古屋YMCA 鈴木 賢治 滋賀YMCA 山田 一夫 杉山 満 平田 美喜蔵 京都YMCA 河原 正浩 坂井 希 中原 茂 前 登 奈良YMCA 細田 裕子 吉田 清三 中本 和子 伏見 和家子 山崎 綾子 三浦 直之 松本 三枝子 山崎 恵 伏見 祐子 和歌山YMCA 野崎 登美 樺野 正樹 神戸YMCA 土井 典子 土屋 寿栄子 詫間 重子 吉川 真喜子 前田 久味 松尾 留美 廣田 光雄 二井 一彦 山岸 安子 浅中 静子 高井 和代 高野 健太郎 藤原 一彦 大塚 裕樹 中西 康晴 室田 博行 笠井 俊明 豊 三三子 丸山 悦治

奈良YMCA 細田 裕子 吉田 清三 中本 和子 伏見 和家子 山崎 綾子 三浦 直之 松本 三枝子 山崎 恵 伏見 祐子 和歌山YMCA 野崎 登美 樺野 正樹 神戸YMCA 土井 典子 土屋 寿栄子 詫間 重子 吉川 真喜子 前田 久味 松尾 留美 廣田 光雄 二井 一彦 山岸 安子 浅中 静子 高井 和代 高野 健太郎 藤原 一彦 大塚 裕樹 中西 康晴 室田 博行 笠井 俊明 豊 三三子 丸山 悦治

東京YMCA 林 明彦 三島 毅郎 久保川 守 藤 喜一郎 安藤 正武 吉崎 勇 石川 喜代子 横濱YMCA 吉崎 勇 三島 毅郎 久保川 守 藤 喜一郎 安藤 正武 吉崎 勇 石川 喜代子

東京YMCA 林 明彦 三島 毅郎 久保川 守 藤 喜一郎 安藤 正武 吉崎 勇 石川 喜代子 横濱YMCA 吉崎 勇 三島 毅郎 久保川 守 藤 喜一郎 安藤 正武 吉崎 勇 石川 喜代子

祝部 康二 京都YMCA 西川 寿一 仲 祥介 大野 嘉宏 奈良YMCA 徳田 健 豊澤 安男 大阪YMCA 西村 耕 伊藤 俊彦 森 雅史 北山 弘信 高岡 正明 前出 孝子 伊藤 圭介 神戸YMCA 山口 政紀 柳 あつ子 山本 太郎 柳谷 舟子 広島YMCA 上久保 昭二 熊本YMCA 米倉 容子 米倉 邁 吉本 寛治 早稲田大学YMCA 林 茂樹

六本木 信久 並木 信一 熱海YMCA 藤井 銀次郎 長谷川 等 池島 恒夫 名古屋YMCA 吉田 一誠 京都YMCA 土屋 順敬 黒木 保博 佐々木 稔 阪田 明 谷口 容造 田中 一夫 藤田 寿男 大阪YMCA 清水 汎 則武 秀尚 望月 強 小路 修 篠 伊サヨ 和歌山YMCA 山端 克己 森下 セツ子 榎本 美保子 神戶YMCA 渡邊 守 三谷 信三 小泉 啓子 中嶋 修 草野 謙 鈴木 誠也 柳谷 利起 熊本YMCA 渡邊 俊子

尾里 一清 歌野 清三 福田 穂 菅 正康 日本YMCA同盟 井口 延 立教大学YMCA 高谷 禎宣

感謝 (1人・1団体)

- 日本YMCA同盟
藤井 衛
YMCA史学会
- 特別功労賞
(5人)
東京YMCA
徳久 俊彦
大阪YMCA
松岡 慶一
池田 和弘
日本YMCA同盟
正野 隆士